

やんばる国立公園(仮称)

指定及び公園計画の決定

国立公園とは

目的

優れた自然の風景地を保護するとともに、その利用の増進を図ることにより、国民の保健、休養及び教化に資するとともに、生物の多様性の確保に寄与すること

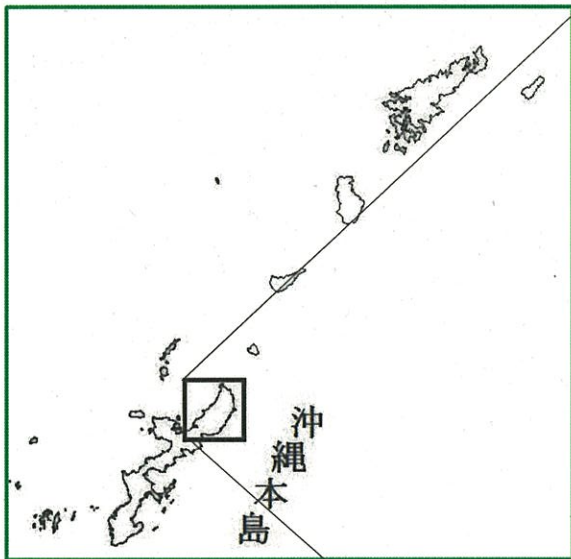
国立公園

我が国の風景を代表するに足りる傑出した自然の風景地
環境大臣が指定

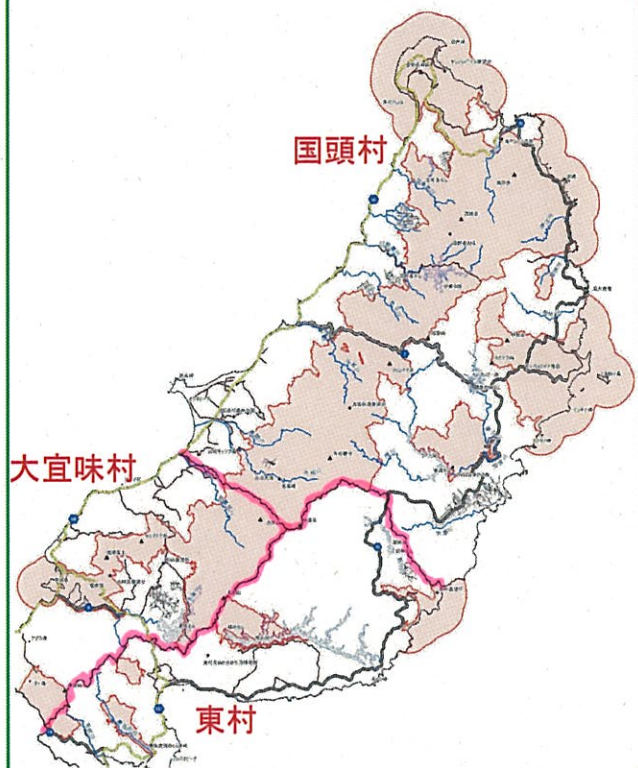
現在、32箇所が指定(面積213万ha、国土面積の5.6%)



やんばる国立公園(仮称)の位置



沖縄島北部(国頭村、大宜味村、東村)
にまたがる地域



亜熱帯照葉樹林が広がるやんばるの森



石灰岩が作りだす風景(大石林山)



マングローブ林(慶佐次)



ノグチゲラ



ヤンバルクイナ



オキナワイシカワガエル



ケナガネズミ

やんばる地域の指定の背景

平成14年 「沖縄振興計画」で「国立公園化を検討」

平成15年 「世界自然遺産候補地に関する検討会」で
世界自然遺産候補地として選定

平成19年 「国立・国定公園の指定及び管理運営に関する
提言」で、「やんばるの照葉樹林を国立公園指
定も視野に評価すべき」

平成20年 「やんばる地域の国立公園に関する基本的な
考え方」を公表

平成22年 新規国立公園候補地として抽出
(国立・国定公園総点検事業)

平成28年度 やんばる国立公園(仮称)指定へ

地域の概要(自然環境)

地形

沖縄島最高峰の与那覇岳(503m)を有し、西銘岳や伊湯岳など明瞭なピークを持たない標高400m前後の非石灰岩の山地が島の中央部に沿って発達し、脊梁山地を形成。辺戸岳、ネクマチヂ岳には石灰岩が分布し、カルスト地形が形成。



与那覇岳



辺戸岬



亜熱帯照葉樹林

植生

スダジイやオキナワウラジログシなどの亜熱帯照葉樹林が広い面積を占めている。ヒカゲヘゴ、ソテツ、アマミアラカシ、マングローブ群落なども見られる。



地域の概要(自然環境)

野生動物

オキナワトゲネズミ、ヤンバルクイナ、ノグチゲラ、オキナワイシカワガエル、ヤンバルテナゴコガネ、クロイワトカゲモドキ、リュウキュウヤマガメなどの固有種や希少種が生息



地域の概要(人文・歴史)

- 琉球王朝時代から、薪炭や都城の建設・船の用材となる**林産物の生産・供給の場**。木材を多人数で運ぶ際の歌は**国頭木遣音頭**(クンジャンサバクイ)として伝えられている。
- 山で薪炭や琉球藍づくりの生業が営まれていた名残として、現在も各所に**炭窯や藍つぼの跡が残る**。
- **海と山を一体として捉え**、1つの空間から自然の恵みを受けているという空間認識で、祭祀がこれを象徴的に表している。祭祀は集落の伝統として受け継がれ、**国頭村安田のシヌグ**、**大宜味村塩屋湾のウンガミ**が国指定重要無形民俗文化財。



地域の概要(利用)

利用者数

約49万人/年と想定 (沖縄県の観光客(約595万人)の8.2%)

※国内県外客(外国人や、県内客は含まない)

訪問者の**7割は日帰り**

※平成25年度沖縄県入域観光客統計概況(沖縄県)
平成25年度観光統計実態調査報告書

利用形態

辺戸岬や比地大滝などの**景勝地めぐり**、与那覇岳などの**登山**、
慶佐次のマングローブやダム湖を利用した**カヌー体験**、
川遊び、ヤンバルクイナなどの**生き物観察** など



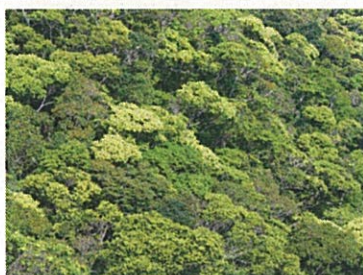
指定理由

風景形式

多くの固有種が集中して分布する国内最大級の亜熱帯照葉樹林の生態系、雲霧林、溪流植物群落などの河川生態系、石灰岩地特有の動植物、マングローブ生態系といった多様な生態系が複合的に一体となった景観

テーマ

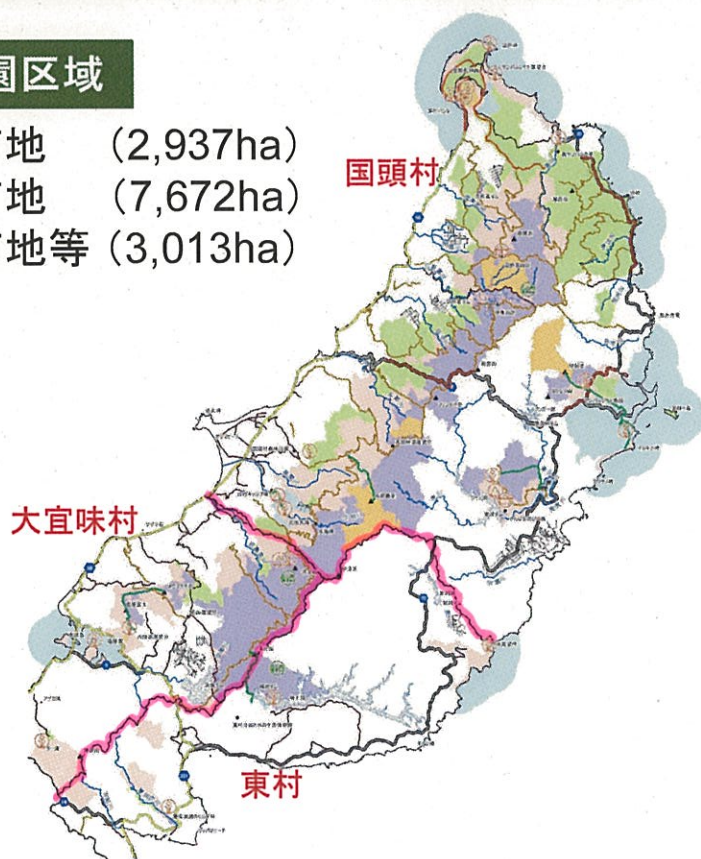
亜熱帯の森やんばるー多様な生命(いのち)育む山と人々の営み



国立公園(案)

公園区域

国有地 (2,937ha)
公有地 (7,672ha)
私有地等 (3,013ha)



公園区域

13,622 ha (陸域)
3,670 ha (海域)

自治体

国頭村 (10,268 ha)
大宜味村 (2,564 ha)
東村 (790 ha)

地種区分

特別保護地区 789ha
第1種特別地域 4,428ha
第2種特別地域 4,054ha
第3種特別地域 3,345ha
普通地域(陸域) 1,006ha
普通地域(海域) 3,670ha